

8月の窓

7月末に、会議で蔵王に行って来た時に、会場となったホテルの近くにきれいなあじさいが咲いていました。本校玄関わきの庭園にもあじさいが少しありますが、7月中旬頃までが見頃でした。山形よりも北の地域や高いところでは、7月末から8月にかけて見頃となるようです。あじさいは、古くは万葉集にも歌われています。

紫陽花の八重咲く如くやつ代にを

いませわが背子見つ思はむ……………橘諸兄

「あじさいの花が八重に咲くように、いつまでも元気でいてください。あじさいを見てはあなたのことを思い出しましょう。」という意味だそうです。

時代が下って、芭蕉や子規も俳句に詠んでいます。

紫陽花や 藪を小庭の 別座敷……………芭蕉

紫陽花の 何に変わるぞ 色の順……………子規

最初の写真は、ホテルからロープウェイ乗り場のある横倉ゲレンデにつながる橋のそばに咲いていたもので、橋には「あじさい橋」の名がついていました。次の写真は、ホテル脇の道路沿いにさいている見事なあじさいです。



三学期制の学校では、7月下旬に一学期の終業式があり、その後夏季休業に入ります。たいていは夏期講習があるので、実質的に生徒が休みになるのは、7月末というところが多いようです。山形東高校は二学期制をとっているため、7月には終業式というものがありません。二学期制に慣れていない私にとっては、いつの間にか夏季休業に入って、いつの間にか夏期講習が終わって、いつの間にか実質的な休みになったという感じもあります。休みになっても、1年生と2年生の多くは、部活動や練習試合などで登校しています。3年生も、講習が終わった後も多くの生徒が登校して、自学自習を行っております。夏季休業中の3年生の自主的な学習を、

本校では「夏の陣」と呼んでいます。いつごろからこのようなものがあるのか調べてみると、「山形東高等学校百年史」に次のような文章が載っていました。

（夏の陣という）名称の定着は（昭和）40年代になってからのことであるが、3年生の生徒が夏休み中の学校に登校して、自らの計画にしたがって勉強しようというものである。旧校舎時代の本校では、校舎の周りに多くの樹木があって、緑陰、或いは涼風という言葉がごく身近にあった。クーラードころか専用の勉強部屋をもつことさえままならなかった30年代当時、学校は最も勉強に適した場所であった。30年代半ばのころから自然発生的に始まったもので、何時、誰によってということはないが、昭和40年2月発行の同窓会報の「母校の近況」欄に「3年生は受験を半年後に控えた夏休み頃より次第に熱を帯びて、休暇1か月は本校舎二階北側（廊下）にずらりと机を並べて早朝より難問と取り組んでいるが、その姿をはたから見れば、將に偉観そのものである。」という記事が見え、すでに30年代末には山東夏の風物詩として定着していたことをうかがわせる。（昭和62年12月発行「山形東高等学校百年史」より）

私が以前勤務していた頃も、北側廊下で多くの3年生が勉強していました。今は、3年生の教室にエアコンが入って、廊下で勉強する生徒は少なくなりました。今年は、7月末までは涼しい日が続いており、エアコンもあまり使う必要がなく、生徒はそれぞれの思いの場所で勉強しています。



最初の写真では、奥の方で勉強している生徒が見えるでしょうか。今も涼しい風が入ってきます。隣の写真は、3年生の先生が廊下に掲示している激励文です。その中にも「夏の陣」の言葉が見えます。参考までに、小さくて見えにくいですが、右側のマンガはスラムダンクで、桜木花道が基礎練習をしているところ、左側のマンガはドラえもんで、のびた君が傷だらけになりながらも練習をして竹馬に乗れるようになったところ です。

先ほど、本校は二学期制をとっていると書きましたが、4月から9月までが前期、10月から3月までが後期となります。そのため、前期の中間考査（テスト）が6月下旬、期末考査が9月下旬に実施されます。1年生にとっては、最初の中間考査が6月下旬ということでテスト範囲も広くなり、たいへんだったと思います。7月に入ると、1日から3日まではクラスマッチが、4日にはあかねヶ丘陸上競技場で体育祭が続けて行われました。この4日間は、教室での授業はなく、生徒全員がクラスマッチや体育祭に出場あるいは応援ということになります。私が以前本校に勤務していた頃も、クラスマッチと体育祭は4日間の日程で実施されていましたが、約20年たっても続いていることに驚き、嬉しく思いました。

この期間は、先生方もクラスの応援を行ったり、職員チームに選手として出場したりします。今年の職員チームは、男子バレーボールが4位、ソフトボールが2位という成績でした。最初の写真は、楽天のシャツを着てヒットを放つ職員の4番打者で、次の写真は、準優勝の賞状をもらっての記念写真です。私も、全試合出させてもらいました。なお、クラスマッチと体育祭の詳細な結果は、本ホームページ上の「山東通信」で見ることができます。



校長室だより「5月の窓」で、本校の卒業学年には、その学年にちなんだ名前がつけられていると書きましたが、山形東高校第8回（昭和33年）卒業生には、東八会という名がついています。この東八会の同窓生は、卒業後節目ごとにクラス会を開催してきたそうですが、還暦を迎えようとしたときに、「高校時代にはなかった修学旅行を今やろう」という声が沸きあがり、平成12（西暦2000）年に、ブタペスト、ウィーン、パリの3都市を巡る海外の修学旅行を実現しました。その後も回を重ね、平成24（2012）年には5回目の修学旅行となり、先月「遅れてきた修学旅行」写真展を高畠町で開催しました。会場となった喫茶店は、私がお世話になった人の店でもあったので、先日行ってきました。

このお店は元交番だったそうで、改装してしゃれた店になっていました。最初の写真は、入口で、次の写真は左に見える「遅れてきた修学旅行」写真展の案内板です。



次の写真は店内を撮影したもので、天井にはプロジェクターで写真やビデオが写るようになっていました。次の写真は「東八会」と書かれた旗をマントにして、ヨーロッパの通りを歩いているところです。



最後に、今月も校内にある芸術作品を紹介します。

本校の玄関を入るとすぐ左側に大きな絵が飾ってあります。前田春治先生の「胡空 行18」というタイトルの絵で、幅が170センチメートル近くあります。前田先生は本校の同窓生でもあり、東京芸術大学を卒業後、東北現代美術協会を結成して、多くの展覧会を開催するなど、本県美術会の発展に尽力された画家でもあります。ブラジルや中国での国際展を開催した他、自身も海外の国際美術展に出品して高い評価を得てきました。平成8年には、齋藤茂吉文化賞を受賞しました。

絵の下にある説明を見ると、平成2年3月から平成6年3月にかけて卒業した学年の卒業生からの寄贈であることがわかりました。私が以前担任していた学年も含まれており、そうしたことがあったこともすっかり忘れていました。

